





「ああ、やっぱり初物とロリマシンの組み合わせは反則だわ。マン肉がギッチリ絡み付いて…うっっっっ」

「あっ、あっ、うあっ…も…もっ…やめ…あああっ…」

「言われなくてももう終わるよっ…はあっ、はあっ…ああ、出る出る…」

「あっ…あっ…うあっ…で…出るっで…まさか…」

ロリ







「ぶっ、たっ、ぶっ、出たわ〜」

「あ……あ……う……ああ……っ」

「よっしや次は俺の番ね!」

「も……やだ……やだよ……誰か……助け……」

「怖がらなくても大丈夫だってw  
いい薬持ってきてるからさw」

「く……すり……っ?」





「はあっ、はあっ…おじさんのチンポどっつ…  
そろそろチンポ気持ち良くなってきた?」

「んっ、んっ、んっ…そ…んな…わけ…  
「ん…の…ひうんっ…」

「ぐひw我慢してもだめだってw  
もうチンポ突く度にメスの声が出るの  
バレバレだよ、ほらほらっ…」

「…んっ…そんな声出てなんか…くっ…んっ…」

おんっ

んっ

んっ





「はあっ、はあっ、またイクぅっ！」

「ひあっ！ま…また中…っ！」

お腹…っ、熱くて…っ、ああああっ♡」

「中出しする度にマン肉ヒクつかせるとは、なんたる淫乱っ、薬の効果とはいえけしからんっ！  
そんなにザーメンが好きならいくらでもくれてやるわっ！」

「ああああっ♡なんで…っ、こんな…っ」

頭…痺れて…っ、ざーめん気持ちいいよお♡♡」





「ほらほらメグちゃん  
おじさんのチンポが入ってくるのがわかるかな」

「そ…そんなの入らな…っ  
ひっ…、あっ…あっ…ああっ！」

「大丈夫大丈夫  
おじさんが優しく犯してあげるからね  
おほっ、この膜を破る感覚…ったまらん！」

「ああああああっ！」

ウッ  
ウッ  
ウッ

お  
お

お  
お





「ああ〜メグちゃんマンコ気持ちえ〜  
チンポを突く度に揺れる小振りなお尻も  
可愛くて…たまらん!」

「うっ、んうっ!いいっ、痛いっ!  
お股…裂けちゃ…ひぐうっ!」

「はあっはあっ、ごめんねメグちゃんっ  
マンコの具合良すぎて腰止まらんわっ」

「いっ、ひぎっ…も…やだ…っ!  
助けて…っ、おかし…痛うっ!」

ズ  
ン

ズ  
ン





「おおおっ…出る出る…！  
メグちゃんの子宮に俺の子種え！」

「…あ…え…ふえ……」

「ああ…出てる出てるっ  
メグちゃんの膣内にとどろきだすてるっ…！」



!?





「ぶっ……俺としたことがちよつと  
乱暴すぎたかな？ごめんねメグちゃん」

「あ……あ……う……ああ……」

「ぬっ、これはいかん……  
あんまり使いたくなかったけど  
アシを使ってみるか……」





「ぶんいぶんい、ぶんいー」

「あつ、あつ、なつ……に……れ……  
か……体……熱……つ……ああつ……」

「おw効いてる効いてるw  
半信半疑だったけど試してみるもんだわw」

「頭ほーっとして……  
なんで……こんな……あうっ……」

「アッ  
アッ  
アッ」

「オッ  
オッ  
オッ」





「また出すよメグちゃん……ぬっっっ」

「あ♥あ♥あ♥すっい♥  
気持ちいいのいっぱいきたあ♥」

「はあっはあっ、まだまだいけるから  
おじさんともっともっと子作りしようねえ」

「する♥おじさんと子作りする♥」

Y!!  
Y!!





「あ、あなた達「んな」としてただですもむもー」

「思ってまーすwオラァッ」

「ひ……きひひひひ」

「ちよw最後まで台詞聞いてやれよw」

「ガキの戯言なんか聞いてらんねーってw  
女は大人しくチンポプチ込まれてりやいらんたよw」



ムン

ムン

ムン

ムン



「ひっ、ひぐっ……ぐすっ……」

「メソメソ泣いてんじやねーよクソがっ  
もっとなんか喘ぎ声かエロ台詞でも  
だしてみるやボケっ」

「鬼かお前はw」

「そんなの……っ、わからな……っ、痛っ……」

「チツ、使えねーな……もう  
とっとと終わらせるか」

あーっ！

あーっ！

あーっ！





「初セックスで孕めやオラッ!」

「嘘っ!やだ...っ!それだけは...っ!  
いやああああああっ!」

「へははwそれだよそれw  
いい声で鳴くじゃねえかw」

「ああああ、生であんだけ派手に  
射精したらこりやマジで妊娠コースだわw」

「そ...んな...嘘...でしょ...?」

!?

Y  
W!

Y  
W!





「…あ…あ…私…汚され…」

「一発やられたくらいで大袈裟すぎんたる  
何が汚れただ下らねえ」

「オイ終わったんならとつとと代われよ」

「フリーワリーwあ、そうだ  
ちよっといいいモンがあんだけどよ…」

「あん？」



どよ

どよ



「んっ、んうっーやっ…っ…何…」ね…  
熱くて…体…へんに…んくうっー」

「おいおいスゲーなこれwさっきまで  
処女だったやつが気持ち良さそうなの声してんぜw」

「最近この辺で流行ってる媚薬だよ  
」こ」まで効果観面とは思わなかったけどな」

「へえっ、これもこと量増やしたらどっつくなるさっ」

「わかんねえけど試してみるかw」

「ひっ…っ…やっ…やめっ…っ」

アッ!

アッ!

アッ!





「だ…駄目っ！…くる！…またへんなのきちやう！  
あ♡あ♡あああああ♡♡」

「ゲハハハw見ろよまたイってるぜw  
どんだけ中出し好きなんだよw」

「そりやお前もたるw  
さっきから何発射精してんだっこの」

「いやあ出す度いい反応してくるから  
チンポ萎える暇無くてさあ、ねえシヤロちゃん？」

「そんなの…っ知らな…ああああ♡♡♡」

ニョロ！  
ニョロ！  
ニョロ！

ニョロ！  
ニョロ！  
ニョロ！

ニョロ！  
ニョロ！  
ニョロ！

キュン♡  
キュン♡



「念願のチノちゃんマンコゲットオ！  
すげえw小さすぎて俺のチンポじゃ  
半分しか入らねえわw」

「あ……あ……な、なんですか……これ……っ  
ち……血が……出て……痛……っ……！」

「ん？いやいやセックスくらい知ってるでしょw  
チノちゃんは保健体育は苦手なのかな？」

「せ……せつくすので……っ……子供を作るための……！」

ズン！

ズン！





「なんだ知ってんじゃない、じゃあ早速始めようかw  
俺とチノちゃんの子作りセックス！」

「なんで……っそうなるん……ですか……っ  
そんなの……嫌に決まって……っ！」

「いやいや嫌とか知らんしw  
チノちゃんが俺の子を孕むのは  
既に決定事項だからw」

「……」の人は何を言ってる……ん……っ……」

アッ  
アッ  
アッ

アッ  
アッ  
アッ









「ふうっ…いや、チノちゃんマシコ最高だったよ  
こんなに出したの人生初かもw」

「…あ…あ…も…もう…離して…ください…」

「はっ？いやいやいや、まだまだ  
これからが本番でしょw」

「…え？…な…何を言ってる…」

「やっぱりセックスはお互いが気持ち良くなしないとw  
これをマシコに塗り塗りすればチノちゃんでも…」



あー

あー

ムズ



「あっ、はっ、あああっ…」

「すげえ、チノちゃんが俺のチンポで感じてるよw」

「そんな…か…感じてなんか…ひあっ…」

「そんな蕩けた顔しながら言われてもねえよっしやこんだけ効果あるならもーっと塗り塗りしましよっねえw」

「だ…駄目…っこれ以上は…ひうっ…」





「あく出る出るっ、また出るっー!」

「あああつ♥駄目♥これ駄目え♥」

「チノちゃんのにイキ顔っ、ザーメンまみれのチノちゃんのイキ顔で射精止まらん!」

「ま、また出て…あああつ♥

こ、これ以上は…もう…っ

おかしくなっちゃ…あああああつ♥♥」





「えっと……ご指名は私でお間違いないでしょうか……?」

「う、うん、そうだけど……」

（うおおっ、写真で見るとより可愛いけど、なんでこんな子がこんなところ……?）

「?それじゃ失礼しますね……ん……?」

「おおっ……」





「はあっ♡はあっ♡んぐっ♡」  
「どっどっうですかっ♡っ♡お兄ちゃんっ♡」

「ああっ、最高だよっ♡っ♡お兄ちゃんっ?」

「なんて呼べばいいかわからなかったのっ♡お気に障りましたかっ♡?」

「い、いや全然っ♡」

「良かったっ♡それじゃ続けますねお兄ちゃん♡」

あーっ♡

あーっ♡

あーっ♡







「う、うめんっ、俺もっ」

「い、いいですよっ、我慢しないで  
好きなときに射精してくださいっ」

「んんん、んんん」

「あっ♡あっ♡ああっ♡す、すっ♡っ♡っ♡  
こんなに入りきらなっ♡あああっ♡っ♡」

Mw!  
Mw!

Mw!  
Mw!

お  
心

お  
心





「はあっはあっ、ふう…」

「いやあ、良かったよチノちゃん  
これなら高い金払った甲斐が…」

「…もう終わりですか…?」

「…え?」

(な、なんだ?急に雰囲気か…)

「私…もっとお兄ちゃん…」

「ゴクッ」

「したい…です…♡」

「っ…」

「お」



「ん、んんんん」

「ま、また……こんな……っ♡  
はっ♡あっ♡ああっ♡すっ♡すっ♡  
お兄ちゃん……っ、すっ♡すっ♡すっ♡」

(「……の子……俺に気があるのかと思っただけ……」)

「遠慮しないで……っ、全部下を……っ♡  
お兄ちゃんの……全部……っ♡」

(只のセックス好きの  
ロリビッチじゃないか……クン……)





「オラー！これかつ、このチンポがいいのかー！」

「あっ♡はっ♡ふああっ♡」

そうっ…だよっ♡おじさんの

ガチガチのオチンポでオマン♡

ズゴズゴってされるのが好きなのおっ♡

「くっ、スケベな言葉を

恥ずかしげもなくっ

なんとけしからんー！」

「えっちな言葉っ、もっと言えるからっ♡

もっとオチンポ奥までちよーだいっ♡」

チンポ！

チンポ！





「くっ、ロリビッチのポテ腹マン！のくせー！  
だめだっ、出るっー！」

「あっっっっ♥おじさんのオチンポが  
中でぶくらんで…っ、んうううんんん♥」

「ぬっ、っ、肉痙攣して…っ、っ、  
搾り取られるっっっー！」

「あっ♥駄目っ♥イクイクっ♥  
おじさんさーめんでイっちやういっちやうっっっっっ♥」

あざっ！  
あざっ！

あざっ！  
あざっ！

あざっ！  
あざっ！





「ふう、中出しされて絶頂を迎えるとは最近のメスはこういう教育を受けているんだ全く」

「はあ♥はあ♥はあ♥  
ら…らつて、こんなに熱くて…濃いの出されたら…我慢出来ないよお♥」

「年長者にたいしてロゴたえまでしおつてこれは教育的指導が必要なようだな」  
「きよー…く…」

あー

あー

ズ





「教育的指導おー！」

「ああっ♡しゅ♡い♡またドクドクっ♡  
きよーいくしゅ♡い♡よお♡もっ♡もっ♡  
きよーいくしゅ♡い♡」

「これだけやってもまだよがるかっ  
それならもうとことんまで  
やってやるわっ」

「オチンポまた硬くなつて…っ♡  
おじさんのオチンポしゅ♡い♡  
気持ちいいの止まんないよお♡♡」

あゝあゝ♡

あゝあゝ♡

あゝあゝ♡





「ぐひwやっぱメスはバックから  
ガンガン突くのに限るわ〜」

「あっ、はっ、あっっっ…あ…あの…っ  
も、もう少し優しく…っ」

「あ…っ…っちや高い金払ってんだよっ  
寝言ほざいてる「ママあったらハ  
マン肉でチンポし」けやオラッ！」

「JJ」めんなね…あ…ん…ん…っ」

アッ!

アッ!



アッ

アッ



「あゝ出る出るっ、久しぶりの生射精だ、しっかり受け止めるよっ」

「は、はひっっ、ど、どうぞお好きなだけ射精してくださいさあぁあぁっ!」

「言われんでも溜まりに溜まった特濃ザーメン全部ブチまけたるわ、オラアツ!」

「な、何この量っっ、こんなの入るわけっっらめっ、我慢出来なっあぁあぁっ!」

アッ! アッ!

アッ! アッ!

アッ!





「お？おいおいザーメン溢れてんじやねえか  
しっかり受け止めるって言ったよなあ？」

「…はあ…はあ…う…う…め…なわ…」

「自分がいくのは忘れないたあ  
使えねえポテ腹ロリ便器だなw  
まあいいや、まだやり足りなねえからよ  
次はしっかり頼むぜオイ」

「あ…は…はひ…」

Y3!

あ

あ

















「はあっはあっ、こんなに出したの  
生まれて初めてだよ、ありがとうっ」

「…はあっ…はあっ…ふっふっ…」

「それじゃそろそろ2回戦いかなっ？」

「…え…ふん…」

「折角ジャロちゃん、日貸切コースなんだから  
時間一杯楽しまないとねっ」

「貸…切…ちよ…ちよ…と待って…  
も…もう少し休ませ…あうっ…」





